

ここ数日は初夏のような気候が続いていて、日中は半袖でもいいくらいです。若葉の緑とそよ風が気持ちよく、外に出るのが楽しい季節です。

<瀬戸内国際芸術祭 2013>

みなさん「セトゲー」って知っていますか？瀬戸内海の島々を舞台に、3年に一度開催されるアートの祭典です。今回は春・夏・秋の3シーズンに分けて開催され、季節ごとの自然や景色の変化も楽しめます。

先日、会場の一つである「大島」と「犬島」に行ってきました。

大島は、高松港の北東約8kmに浮かぶ小さな島です。ここは、ハンセン病の国立療養所としての長い歴史があり、現在も約85名の回復者の方たち（入所者）が暮らしています。名古屋造形大学の有志による「やさしい美術プロジェクト」がかつての住宅を会場に作品を展示しており、入所者の方が撮影した写真を展示した「海のこだま」、人魚姫や深海魚をイメージした「青空水族館」などがありました。青い海に囲まれた静かで美しい島の風景と過去の歴史。いろいろな思いがこみ上げてくる島でした。

犬島は、岡山市の南東部に浮かぶ周囲わずか3.6kmのこぢんまりとした島です。犬に似た巨岩を祀っていることからこの名前がついたといわれています。古くから花崗岩の産地として知られ、大阪城などに使われました。島内には定紋石が今でも残っています。また、明治から大正時代にかけて栄えた近代化産業の遺構である銅の製錬所を保存・再生し、美術館として活用しています。島の中を歩いているとハッと驚く建物が現れます。「家プロジェクト」という作品で、かつて建っていた古民家の資材を再利用したものや、アクリルが使われたものなど古いものと新しいものがうまく調和して建てられています。突然現れる不思議な光景に最初は驚きますが、しばらく見ていると引き込まれて、ずっとそこにたずんでしまう魅力があり、新鮮で特別な感覚を味わえました。

そびえたつ煙突とレンガ造りの工場跡、昔ながらの古い住宅、石垣の通り道、海辺の灯台、山神社から眺める島内の町並みと瀬戸内海に浮かぶ島々…、自然・歴史・アートが結びつき、島全体が一つの大きな作品となっていました。

